

# マンゴーに着目 昨年就農

## 「関東で栽培少ない」

### 毛呂山町の中村さん挑戦

【埼玉】毛呂山町の中村さんは妻と2人で、昨年からアップルマンゴーをハ



ウス15坪で栽培。もともと会社員だったが、食に関わる農業に可能性を感じ2022年に就農した。

「関東であまり作られていないものを栽培したいと思っていた」という中村さん。付加価値を付けて販売できる農産物としてマンゴーを選んだ。商品名もインパクトのある名前にと、「さいたまマンゴー」と命名。多くの人に興味を持ってもらえるのはうれしいと話す。

栽培方法は根域制限栽培で、大木化せず甘い実ができるという。「関東で栽培しているからこそ、完熟した一番おいしいタイミングで消費者に届けられるのが強み」と話す。

中村さんのマンゴーは主に直売所で販売。マンゴーの販売日が買い物客に分かるよう、生育状況を店頭の黒板に書くようにした。「情報はできるだけ伝えたい」とSNSでハウス内や直売所の様子の発信も始めた。直売所に来る買い物客とのふれあいを大事にし、また来たいと思ってもらえるよう日々工夫している。

「埼玉を代表するお土産をめざしたい」と話す中村さん。今後は6次化にも挑戦し、プリンやタルトなどお土産にできる商品づくりを考えている。「町の代表的な農産物はマンゴーといえるようにしたい。ゆくゆくは県を代表する果物といってもらえるようがんばります！」と笑顔で話した。